

北電産業(株) 土木部 正員 ○ 有賀 明
 北電産業(株) 土木部 正員 横松 敏夫
 北電産業(株) 大沢 久則

1. はじめに

56年度、57年度、年次学術講演会(II-179及びII-144)に於て、中小水力発電所の型式(立軸、横軸)選定について次の様に発表した。

1). まず発電所の設計について、型式をきめる場合に問題になるのは、立軸にするか、横軸にするかであるが、筆者らは過去の実例を参考にして型式選定の基準をつくる目的で、次の様に提案した。

2). 中落差に適用されているフランシス水車を使った流れ込み式発電の5,000 KW前後の発電所を対象に型式選定について考察すると、一般には横軸が有利である。(よほど地形、地質に恵まれない狭小地、支持地盤深さが10m以上を除いて。)

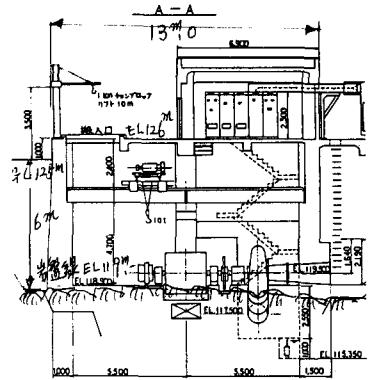
3) 調整池式発電の場合は一般に立軸が有利となる。

今回、基準作製の一過程として、最近話題になっている総合ダムに附設する完全従属発電の場合の例について試算して、立軸か横軸かを検討して、横軸に決定した経緯と、さらに横軸を採用する場合に水車の回転数4種類(720 r.p.m., 600 r.p.m., 514 r.p.m., 450 r.p.m.)を比較検討の結果 600 r.p.m.の水車を採用するに至った経緯を発表する。(Y発電所の例)

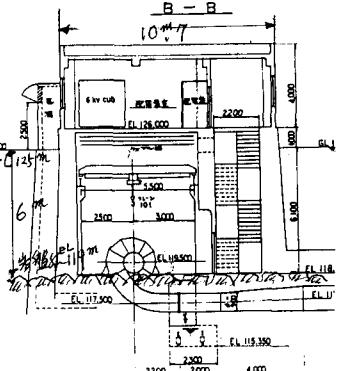
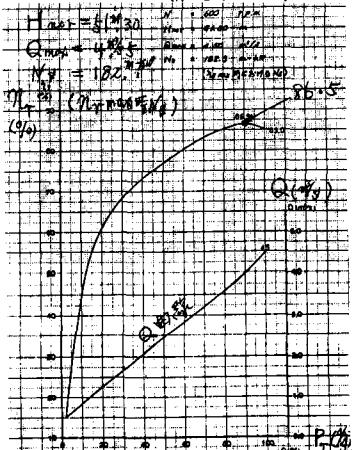
2. 調整池式発電横軸案(第1図 第2図参照)

$$P = 1,900 \text{ KW}, H = 52.3 \text{ m} \sim 51.3 \text{ m}, Q = 4.5 \text{ m}^3/\text{s}$$

	720 r.p.m.	600 r.p.m.	514 r.p.m.	450 r.p.m.
工事費	水路	3.9 億	3.9 億	3.9 億
	基礎	0.4	0.4	0.4
	計	4.3	4.3	4.3
建 築	0.4 億	0.4 億	0.4 億	0.4 億
電 气	水車発電機他	4.4 億	4.5 億	4.7 億
	諸装置他	0.3	0.3	0.3
	計	4.7	4.8	5.0
ダム負担分	0.5 億	0.5 億	0.5 億	0.5 億
その 他	4.4 億	4.4 億	4.4 億	4.4 億
合 計	14.3 億	14.4 億	14.6 億	14.8 億
年間可能発生電力量(MWh)	6,980	7,291	7,346	7,417
KW当り建設単価(万円)	752	760	771	779
KWh当り建設単価(万円)	20.5	19.8	19.9	20.0
常時出力 (KW)	0	39	51	65



第1図 橫軸案設計図

第2図 水車効率曲線(横軸)
(N=600 r.p.m.)

上述のとおり 4ケースについて検討した結果、KW当りの建設単価では
回転数=600 r.p.m.が最適値を示している。

したがって、水車及び発電機は下記のとおりとする。

水車	型 式	横軸单輪单流渦巻型フランシス水車	
	最大出力(KW)	2,000	1台
	回 転 数(r.p.m.)	600	
発電機	型 式	横軸回転界磁三相交流同期発電機	
	容 量(KVA)	2,000	1台
	電 壓(V)	6,600	

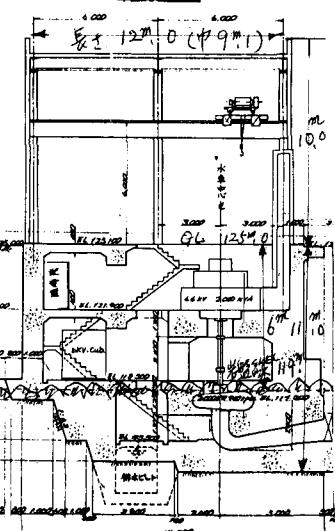
3. 調整池式発電立軸案(第3図、第4図参照)

$$P = 1,900 \text{ KW}, H = 51.8^m \sim 43.13^m, Q = 4.5 \text{ m}^3/\text{s}$$

立軸フランシス水車を採用する。(カプラン水車の領域であるが、ランナ羽根を可動にすることは、水車の大きさから判断して困難と考えられるので採用せず。)

表-1、型式選定実例

第3図 立軸案設計図



工事費	土木	水路 { 基礎 計 } 3.9 億 0.9 4.8
	建 築	0.7 億
	電 気	水車発電機他 5.5 億 設置装置他 0.4 計 5.9
	ダム負担分	0.5 億
	そ の 他	4.4 億
	合 計	16.3 億
	年間可能発生電力量(MWh)	7,776
	KW当り建設単価(円/KW)	858
	KW当り建設単価(円/KW)	210
	常 時 出 力(KW)	0

(A) (水路式)		型 式	P (MW)	岩盤深さ	摘要
1	上市川第三	横軸	4.7	4m	58年着工
2	境川第一	横軸	5.1	10	運転中
3	S	横軸	0.8	5	計画中
4	P	横軸	1.3	6	計画中
5	U	横軸	2.2	6	計画中
6	帷倉第二	立軸	10.2	12	運転中
7	早月	立軸	6.0	16	運転中 (狭小地、民家あり)
8	北小谷	立軸	10.5	9	運転中 (狭小地、国道あり)
(B) (調整池式)					
1	新内川	立軸	7.4	5	57年着工
2	Y	横軸	1.9	6	計画中 (総合ダム、従属発電)

4. むすび

調整池式発電については、前回、一般的に立軸が有利であると発表したが、今回の様に総合ダムに附設する完全従属発電の場合は、2、3に説明した様に検討の結果、横軸が有利であると結論づけた。理由は、横軸の方が工事費が少いとの、KW当りの減少(立軸に比して)が、完全調整式運転と比較して、従属発電の場合は大した事はない無いと考察する。

水路式発電については、他の数例を更に比較検討したが、一般に横軸が有利であることは、型式選定基準として採用しても可と確信を深めた。

(表-1 参照)

第4図、水車発電機合成効率曲線(立軸)

